

我が家のブロック塀安全点検表

ご自宅のブロック塀を、見て・触れて点検をしてみましょう。

A.基本性能の点検（基本性能値） （※は、参考写真番号）

点検項目		基準点	評価点
1	建築後の年数	10年未満	10
		10年以上、20年未満	8
		20年以上	5
2	高さの増積み <small>（既存ブロック等の上に、さらにブロックが積まれている）（※①③）</small>	なし	10
		あり	0
3	使用状況（※②）	塀単独	10
		土留め・外壁等を兼ねる	0
4	塀の位置（※③）	塀の下に擁壁なし	10
		塀の下に擁壁あり	5
5	塀の高さ（※③）	1.2m 以下	15
		1.2mを越え、2.2m以下	10
		2.2mを越える	0
6	塀の厚さ	15cm以上	10
		12cm	8
		10cm	5
7	透かしブロック（※④⑤）	なし	10
		あり	5
8	鉄筋（※①④）	あり	10
		なし	0
		確認不能	0
9	控え壁（※⑤）	あり	10
		なし	5
10	かさ木（※③）	あり	10
		なし	5
基本性能（1～10の評価点の合計）			a

B.壁体の外観点検（外観係数）

点検項目	係数	外観係数
11 全体の傾き（※⑦）	なし	1
	あり	0.7
12 ひび割れ（※⑧）	なし	1
	あり	0.7
13 損傷	なし	1
	あり	0.7
14 著しい汚れ	なし	1
	あり	0.7
外観係数（11～14の最も小さい評価係数）		b

C.壁体の耐力点検（耐力係数）

点検項目	係数	耐力係数
ぐらつき	動かない	1
	わずかに動く	0.8
	大きく動く	0.5
		c

D.保全状況の点検（保全係数）

点検項目	係数	保全係数
補強・転倒防止対策等の有無	あり	1.5
	なし	1
		d

総合評点の算定（ブロック塀の点検表から、総合評点を求めます。）

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{基本性能値} \\ \hline a \\ \hline \end{array}
 \times
 \begin{array}{|c|} \hline \text{外観係数} \\ \hline b \\ \hline \end{array}
 \times
 \begin{array}{|c|} \hline \text{耐力係数} \\ \hline c \\ \hline \end{array}
 \times
 \begin{array}{|c|} \hline \text{保全係数} \\ \hline d \\ \hline \end{array}
 =
 \begin{array}{|c|} \hline \text{総合評点} \\ \hline e \\ \hline \end{array}$$

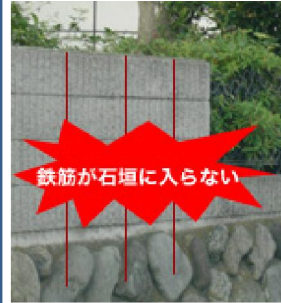
判定（総合評点から、点数結果が判定されます。）

総合評点（e）	判定	今後の対応
70点以上	安全です	3～5年後を目安に再点検しましょう
55点～70点未満	一応安全です	1年後に再点検しましょう
40点～55点未満	注意が必要です	精密点検を行い、再度判定するか、転倒防止対策を講じましょう
40点未満	危険です	早急に転倒防止対策を講ずるか、撤去しましょう

※この点検表は、長野県エクステリア建設業協会のパンフレットに基づいています。

こんな症状はありませんか？

①



②



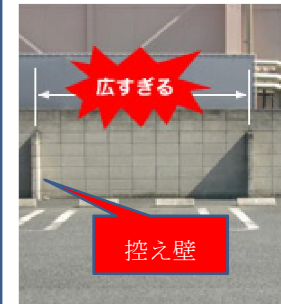
③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



診断結果はあくまで目安ですが、合計評点 55 点未満のブロック塀は、地震などにより倒壊する危険性が高いため、建築士等の専門知識を持った人による診断をおすすめします。また、状況により、塀の補修等必要な転倒防止対策を行ってください。

ブロック塀等の安全点検について

平成 30 年 6 月 18 日に大阪府で発生した最大震度 6 弱の地震により、2 名の方が倒壊したブロック塀等の下敷きとなりお亡くなりになりました。また、ブロック塀等の倒壊による被害は、過去の地震でも繰り返し起きてきました。

昭和 53 (1978) 年の宮城県沖地震では、ブロック塀等の倒壊で 18 人が犠牲になりました。これを教訓に昭和 56 (1981) 年の建築基準法改正の際、塀の高さの上限が 3m から 2.2m に引き下げられました。

建築基準法施行令では、高さ 1.2m を超える場合、塀の強度を高める「控え壁」を 3.4m 以下ごとに設置することなどが定められました。

平成 17 (2005) 年 3 月の福岡県西方沖地震や平成 28 (2016) 年 4 月の熊本地震でも、塀等の倒壊により各 1 名がお亡くなりになっています。

ブロック塀等は、プライバシーの確保や防犯などに役立つ一方、現行法の構造基準を満たさないものにつきましては、地震などによる倒壊の事例も多い状況になっています。特に不特定多数の方が利用する道路沿いや、通学路に面するブロック塀等の安全確保が、緊急時の救急・消火活動も含め重要になります。

ブロック塀等のような私的財産は、所有者の責任において管理することが基本となってきます。この機会に、ブロック塀等の構造、耐久性、転倒防止対策を理解し、安全点検を実施してみましょう。また、定期的に点検をする習慣を付けましょう。

< 第一段階：外観に基づく点検 >

「我が家のブロック塀安全点検表」に基づく診断

< 第二段階：ブロック内部の診断 >

建築士・専門工事事業者等の、専門家の協力を得て診断することが望ましい。

- ・鉄筋の接続方法、モルタルの充填状況
- ・鉄筋のピッチ及び定着状況
- ・基礎の根入れ深さなど

ブロック塀等の点検表

- 下記の点検表を使って点検してみましょう。

「我が家のブロック塀安全点検表」

※診断結果はあくまで目安です。建築士等の専門知識を持った方による診断を受けることにより正確に判断できます。

ブロック塀等の除却に関する補助金について

- 生け垣補助制度（既存のブロック塀等を解体して生け垣を設置する場合）

（都市計画課 景観緑地係）TEL:0268-22-4100（内線 1522）／FAX:0268-23-8247

